

**第2期 第4回
高圧ガス規格委員会
議事録**

1 日 時：平成21年12月22日(火) 14:00～16:00

2 場 所：高圧ガス保安協会 第2・3会議室(11階)

3 出席者：(敬称略・順不同)

委員長：木村

委員：大谷、土橋、堀口、駒田、渡辺、倉田、佐々木(春山委員代理)、高田、三宅^博、
小峰、萩原、小澤、平位、原、山崎、萩野、佐藤、山崎

オブザーバ：荒木((社)日本エルピ°ーガスプラント協会)

KHK：荒井、松木、長沼、宮下、小山田

4 配布資料

資料30 第2期第3回 高圧ガス規格委員会議事録(案)

資料31 保安検査規格審査小委員会 評価書(平成21年11月4日)

資料31 参考 KHKS 0850-3 保安検査基準新旧対照表

資料32 書面投票結果(KHKS 0501 LP ガスバルク供給基準(工業用等))

資料33 書面投票結果(危害予防規程の規範 等)

資料34 危害予防規程等の見直しに係る書面投票について
(コメント付賛成への対応について)

資料34 参考 危害予防規程等コメント対応修正案

資料35 危害予防規程等の改正に係るテクニカルレビューにて提出された
ご意見とご意見に対する考え方について

資料36 KHKS 0802 断熱に関する基準の廃止について(案)

資料37 ASME Delegate 活動報告

5 挨拶等

原委員の退任及び新任の三宅^博委員について紹介があった。

6 議事概要：

6.1 議題(1) 前回議事録(案)の確認・承認

事務局から資料 30 について、事前に各委員に送付済みである旨及び事前送付・確認の結果、修正等はない旨の説明があった。その後、資料 30 を正式な議事録とすることについて挙手による採決が行われ、この時点での出席委員全員(17名)の賛成により可決となった。

6.2 議題(2) KHKS 0850 保安検査基準(改正分)の告示指定に係る経済産業省審査結果について

事務局から資料 31 及び 31 参考に基づき説明があった後、以下の意見交換等があった。

①フレキシブルチューブ類に関する経済省の小委員会での疲労に対する指摘は、LP 業界としても認識している。2009 年版 KHKS 0850 が告示に指定される前提で、JLPA 基準でフレキシブルチューブ類の設置に関することも含めて基準を検討していた。事務局の説明にもあったが、設置基準＝本来は完成検査での確認事項であるはず。

KHK としてはどの様に整理する考えか。(萩原委員)

→指摘のとおり、間違った取付けをしないといたことは設置時に指導、確認されるべき事項である。ただし、それが維持されているかを保安検査で確認する必要もあることから、フレキメーカ等から示されている設置条件や推奨される取扱い方法等を KHKS に引用していくこととしたい。同様に JLPA 基準の内容も引用、活用することとしたい。

(KHK)

②検査機関の代表を委員に加えたい旨の発言が事務局からあった。特に反対の意見はないようだが、今後の対応はどうするのか。(木村委員長)

→保安検査機関の代表について事務局にて関係機関等と協議する。委員の候補者がまとまった段階で委員長に相談することとしたい。(KHK)

以上のような意見交換等があった後、今後の作業等について次のとおり確認した。

- a) KHKS 0850 シリーズについては、経済省の小委員会での指摘を踏まえ、今回の審査で不可とされた事項及び基準全体の構成について見直すこととする。事務局で原案をまとめ、次回以降の規格委員会にて審議いただく。
- b) 委員の追加については事務局にて検討し、候補者がまとまった段階で委員長に相談し、その後各委員に連絡する。

6.3 議題(3) KHKS 0501 LP ガスバルク供給基準(工業用等)の見直しについて

事務局から、資料 32 の書面投票結果及び現在パブリックコメントの実施中(H21.12.14～H22.1.25)である旨説明があった。

6.4 議題(4) 危害予防規程の規範等の見直しについて

事務局から、資料 33、34 及び 34 参考に基づき説明があった後、資料 34 の内容にて書面投票時の案に編集上の修正を行うことについて挙手による採決が行われ、この時点での出席

委員全員(17名)の賛成により可決となった。

また、編集上の修正を行った案にてパブリックコメント(1ヶ月)を年明け後に実施することとした。

6.5 議題(5) KHKS 0802 断熱に関する基準について

事務局から、資料 36 に基づき説明があった後、以下の意見交換等があった。

①他の規格(他の規格委員会が所掌するものも含め。)でも JIS の引用や内容を記述しているものは多い。それらも同様に廃止していく考えか。(荻野委員)

→規格のニーズ、内容、各々の規格委員会の状況等を総合的に判断して、個々の規格毎にその必要性は判断される。本件も、廃止の方向としての議論を進めたいとの意向であり、書面投票、レビュー、パブコメ等での意見を踏まえ見直すことはあり得る。(KHK)

②経済省では高圧ガス事故の検討に係る WG を設置し、現在、検討作業が進められている。保温材下の腐食による事故は多いことは知られており、廃止ありきで検討を進めるのはどうか。経済省の WG での検討結果を待つこととしてはどうか。(荻野委員)

→繰り返しになるが、廃止ありきで検討を進めるものではない。所定のプロセスを踏まえるので意見を聞く機会は十分にある。事務局として廃止(案)を示しているが、廃止を決めた訳ではない。(木村委員長、KHK)

以上のような意見交換等があった後、基準廃止について書面投票(15日間)を実施することとなった。

6.6 議題(6) ASME Delegate 活動報告

事務局から資料 37 に基づき説明があった。

7 その他

事務局から以下の連絡があった。

- ・次回委員会の開催は、平成 22 年 2 月 5 日(金)の午後を予定。
- ・KHKS 0850-3 の見直し原案については、委員会開催前に各委員へ送付したい。

以上